

佐世保市の久田学園

佐世保女子高校が来春の入試の検査項目に「箸の持ち方」を取り入れる。同校は食育を重視しており、受験生に生活習慣や、食べることに對するマナーが身につけているかどうかを見るのが狙いだ。

「家庭でそれを教えられず、しつづられて

確かにそうだ。大切な相手とテーブルを囲んだ時、「箸も使えないのか」と思われては

不意な結果を生むことにもなりかねない。入試にとどまらず、人に囲まれて生活をしていく上での必修科目だろう。

◇ 全国の高校に、必修

み、物理や化学を呪った。それでも「苦手なりにやった」実感は残った。

学校での勉強に限らず、映画や小説を見た時、映画がたてば内容は忘れていく。難しくて理解できなかった作品はなおさらだ。それでも

その時に「面白かった」

立てていくことは、数学の証明問題を解いていく道筋に似ている。

入試を突破するため

特定の科目だけに取り組む受験勉強は、基礎学力やバランスの取れた教養に欠ける学生を生む弊害が指摘されている。久田副校長は背伸びをするの偏りがち

になる。高校では土台

西海評論

必修科目



いない子どもが多い。大上段に構えるわけではないが、学校が正しい生き方をリードして、人間としての基本や常識を大事にさせてい」と久田順子校長は話す。「誰かと食事を共にする時、箸をきちんと持つことは最低限のマナー」と久田活史副校長は説明する。

科目の履修単位不足問題が広がっている。県内でも一校発覚した。学校が受験対策を優先させたことが背景にある。

大学入試で私は5教科7科目を受験した。

根っからの文系なので「こんなことを習って

も、将来使う機会があるものか」と数学を恨

と満足した思い出も、その時は「分からなかった」悔しい経験も、どちらも今の自分の血となり肉となっていると感じることは多い。

あの数学ですらそうだな。何か課題が現れた時、与えられた条件の中で「ああやって、こ

うやれば何とかできるかな」と解決策を組み

をきちっとやって、専門は上級学校でやればいい」と話す。

どんな意味があり、何の役に立つのか、今は分からなくても、いつか分かることはたくさんある。学校は、それを教える場になってほしい。

佐世保支局長

小野英行